

イベント広場(9・10月予定) <●院内★その他>

9月

- 19日(金) 13:30 いっぽの会茶話会 (オープニングルーム)
- 26日(金)13:20 元気のひろば (オープニングルーム)
- イベント:『五感で珈琲を楽しむ会』 **予約制(限定10名)**
※いつもより開始時間が早くなっています
- 27日(土)13:30 ご家族のためのサポートグループ (オープニングルーム)

10月

- 3・17日(金) 13:30 いっぽの会茶話会 (オープニングルーム)
 - 4・18日(土) ファミリープログラム 第2クール
 - 24日(金) 13:30 元気のひろば (グリーンホール)
- ゲスト: ポンシュシュ (就労継続支援B型)

くらしとこころのサポートネット八王子 定例会参加報告

2025年9月5日、NPO 法人「くらしとこころのサポートネット八王子」(通称、くらこ)の定例会に参加しました。「くらこ」は、安心した「くらし」を中心にして、心の病、精神障害をもつ人や悩みを抱えた人の「こころ」の問題を、専門家だけでなく、八王子市民の課題として考えていく団体です。主な活動は、精神保健福祉に関する情報提供や啓発、精神障害者自助グループやボランティア団体等のネットワーク推進などで、最近では、居場所カフェを開催しています。

今回、「精神科病院に入院している方が、野外イベント『八王子古本まつり』に来ていただくことができないか」という議題検討のため、当院も含め、八王子市内の精神科病院に務めるNs、PSWが招かれました。その中では「入院患者が高齢化しているため、身体科への受診同行業務が増大している」「感染対応が厳しくなり、外出時の食事を制限している」「以前は退院への動機づけを目的に外出同行できていたが、今は人繰りが難しい」「地域の方を病院で受け入れる際、事前調整が難航する」という病院側の意見が上がりました。地域支援者側からは「職員の方に負担がかかるようであれば、病院へ出向き、入院されている方へ軽食などを振舞いたい」「キッチンカーで訪問できないか」など工夫が出され、前向きな話し合いとなりました。今後、活動内容が明らかになった際には、またご報告します。

当院では精神障害者の当事者団体である「はちびあソサイク」のピアサポート活動を受け入れています。「くらこ」には当事者の会員が多く、入院されている方と対等な立場で、「支える・支えられる」関係づくりができるように思います。SSKではピア活動を応援するためにも、これからも地域の支援団体との繋がりを大事にしていきたいと思います。

8/19に開催致しました♪

北野調剤薬局の薬剤師・梅山さんが
講義をして下さいました!

退院支援委員会主催学習会 「調剤薬局の機能と訪問調剤の現場から学ぶ」

今回は当院医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・医事課職員・グループホーム職員・訪問診療職員・相談支援事業所職員・八王子市(福祉課職員)合わせて21名の参加がありました。

アンケートからは「訪問薬局の意義を学ぶことができた。精神科治療の一つとして服薬があり、“飲めない理由や飲んだ時の様子を一緒に考える”という言葉が印象的」「服薬支援ロボ、算定(訪問薬剤管理指導)のことなど知らないことが多く、退院支援を前向きに考えることが出来た」「社会資源の1つとして北野調剤薬局ができることを理解し、つながられるようにしたい」「お話を聞いて北野薬局さんのやる気を改めて感じる事ができ、とても心強く思った」などの声が聞かれました。

退院支援委員会 主催 学習会

テーマ: 調剤薬局の機能と
訪問調剤の現場から学ぶ

- ◆講師: 梅山 雅生 管理薬剤師(北野調剤薬局 高尾店)
- ◆日時: 2025年8月19日(火) 15時15分~16時30分
- ◆会場: 勢木野病院(グリーンホール)
- ◆対象: 勢木野病院職員・青溪会職員

現代の地域医療において、調剤薬局は単なる「薬を渡す場所」ではなく、在宅療養を支える重要な存在となっています。本講義では、調剤薬局の基本的な役割から、訪問調剤を通じた実践的な支援の実態、そして多職種連携による包括的な医療支援体制について、わかりやすく解説して頂きます。患者さまが退院後どのように精神科治療を継続していくのか、服薬管理の視点から一緒に学びましょう。

◆お問合せはサービスデスク 勢木野
秋原(875)・水野(832)・吉野(872)



裏面も
ご覧ください



7月 元気のひろば

ビーイングスペース萌



みなさん、こんにちは！7月の元気のひろばのゲストはビーイングスペース萌さん、通称「萌パン」さんでした。職員さん1名、ゲスト2名に来ていただきました。ご存じの通り、火曜日と金曜日のお昼休みに駒木野病院まで出張販売しに来てくれています。職員さんにお話を聞くと、萌パンさんは「パン屋というよりパン工場に近い」とおっしゃっていました。一応店舗もありますが、出張販売が主だそうです。いわく、普通のパン屋さんは夜中の2:00くらいから仕事を始めて、朝、できあがってきたパンを買ってもらおうそうです。萌パンさんはB型作業所なので、そこまで早くはできず、それでも6:00から始めているそうです。それで、8:00頃からだんだんメンバーさん達も出勤してきて本格的に始動。萌パンさんは朝の出勤や登校時に買ってもらうには間に合わないけど、お昼休みに自分たちから学校に配達したり病院にて販売をおこなったりして、パンをお昼ご飯にしてもらっています。確かに、朝、「お昼ご飯これにしよう」と買うより、昼休みにその時に食べたいパンを食べたいだけ買う方がお得感がありますよね。ゲストはお二人ともパン作りが大好きで、責任と誇りを持っているのが伝わってきました。「パンの匂いが好き」「子供の笑顔のためにパン作りを頑張れる」「パンを作っている時はすごく集中するから、不安がなくなる」など、パン作りを通じて自分の仕事に対する向き合い方も教えてもらえました。こんなに想いがこもっているから、おいしいパンができるんだなと納得です。ありがとうございました！



8月 元気のひろば

グループホーム くめぎの杜

皆様、こんにちは！8月の元気のひろばのゲストはGHくめぎの杜でした。職員2名、ゲストのAさんとBさん女性二名が来てくれました。雰囲気利用者さんが職員さんを信頼しているのが伝わってきました。実家暮らし、精神疾患持ちの私はGHの暮らしに興味津々です。印象に残ったのはAさんの「部屋にゴキブリが出て、職員さんと呼んだ」という話。私は「え！虫出たら職員さん来てくれるの！？」とびっくりしました。でも、よくよく考えると、Aさんだからこそ、助けてあげたいと思わせる魅力と信頼関係があるのだと思います。もうひとりのBさんは「元気のひろばに出るにあたって、色々思い出して、人生を振り返った。良い経験になった。」とおっしゃってくれました。また、今は病気の症状のせいでスムーズに動けないけど、料理が得意だった、と教えてくれました。くめぎの杜の月に一度の夕食会では、症状に気を付けつつ野菜を切ったりして職員さんをサポートしているそうです。あと、おもしろいと思ったのが、

Aさんが「病気は誰でもなりうるもの。恥じる必要はない」と言っていて、かたやBさんは「(自分は)自分の気合いが足りないから病気になった」と対称的なことを言っていたところでした。まったくタイプの違うお二人でしたが、それぞれに魅力や説得力があってお話を聞くのがすごく楽しかったです。

皆様、ありがとうございました！

